

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ
五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第14回

リヨウミンの地

道の駅「たまつくり」で売り場を見ていたら、隣にやってきた夫婦らしき高齢者二人の女性のほうがサツマイモを手に取りながら言った。

「ここ行方はリヨウミンの地ね、ふふ」その声はアニメ「まんが日本昔ばなし」(40代以上なら知っている人が多いはず)の中でおばあさんを演じているときの俳優・市原悦子さん声にそっくりだった。お馴染みのオープニングテーマが聴こえてきそうなほど。

連れの男性の「そうだなあ」の声も、なんと同アニメで声を担当していた常田富士男さんに似ており、思わず二人の顔を見てしまった。

市原さんと常田さんは故人だけけれど、隣に立つお二人のルックスもどことなく雰囲気似ていたのだった。へもしかして二人の精霊が、日本昔ばなしの元ネタになった地を巡っていたりして…。行方市の一部地域は千年村(千年以上にわたり、自然的社会的災害・変化を乗り越えて、生産と生活が持続的に営まれてきた集落・地域をさす)に認定されているくらい古くから人の営みがあった地なのだから、行方市の民話も少なからずあって、それ由

来の作品があったかもしれないなあ。売り場を物色しながらそんなことを考えていたら、二人はいつのまに店内からいなくなっていた。そのタイミングでひとつの疑問。

リヨウミンって？ たしかにそう発音していたけれど…。良民、とは思えない。領民、はありえない。だから結論は、良眠、きつと。

旅行あるいは帰省で行方に宿泊し、大変よく眠れたのではないだろうか。良眠を得るための環境は、光・音・香り・温度・湿度が適切であること。彼女に、行方は良眠の地と言わせた睡眠の状況とはどんなだったのか。そして、行方のどこだったのか。

小林 光恵さん

朝の小鳥たちのさえずりで目が覚めることがあります。人によってはやかましいと思うかもしれないほどにぎやかでも、私は気になりません。皆さんはどうですか？



行方市出身。つくば市二の宮在住。最近、ワイン熱が再燃しました。行方市のワイン用ブドウ畑産のブドウでできたワインを今度味わってみたいです。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶



地域おこし

協力隊

連載コラム⑭

4月から地域おこし協力隊として行方市にやって来ました高木桂子です。地域おこし協力隊として、現在は行方市まちづくり推進機構で勤務をしています。私は富山県富山市の出身で、行方市に来る前は、東京で働いていました。都内での生活から一転、自然に囲まれた新しい土地での暮らしを楽しんでいます。

行方市に来てまず驚いたのは、湖の広さです。霞ヶ浦を初めて見たとき「なんて大きいんだろう！」と感動しました。富山には、湖というものがなかったのでも、とても新鮮でした。湖に沈む夕日の美しさにも感動しっぱなしです。また、富山は田んぼがほとんどで、畑があまりなかったこともあり、畑が一面に広がっている風景の壮大さにも驚きました。

この7月で私は一つ年を重ねます。誕生日の月に、こうして初めてのコラムを書くことができますのも、なんだかご縁を感じています。まだまだ知らないことばかりですが、これから地域の皆さんとたくさん関わりながら、行方



▲高木 桂子 隊員

【令和7年4月1日～現職】観光資源の再発見や開発、市の魅力の情報発信、特産品の販売や地域資源を生かしたまちづくりに取り組んでいます。

市のことを知り、自分なりの形で市を盛り上げていけたらと思っています。まずは顔を覚えてもらえるよう、いろいろな場所に顔を出していく予定です。皆さん、これからどうぞよろしくお願ひします！

(次号は、堅田麻理奈が担当します。)



▲観光帆引き船のガイドをする予定です。乗船した際には、お声がけください！



▲兄の家族が行方市に遊びに来て、田植え体験をしました。



▲ハチミツ農家で、巣枠を持たせてもらいました。